

令和6年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会
第1回定例会会議録

1 開催日時 令和6年8月21日（水）午後1時30分から午後2時10分まで

2 開催場所 小牧岩倉エコルセンター 2階研修室

3 出席委員

井上 功	委員長	入江 慎介	副委員長	野々川好昭	委員
栗原 賢	委員	河田久美子	委員	仲村 節	委員
井戸田通敬	委員	高木 進	委員	前田 悦子	委員
松井 隆明	委員	稲垣 淳郎	委員	橋本 秀明	委員
河村 典久	委員（学識経験者）	鈴木 尚紀	委員	伊藤 新治	委員
秋田 伸裕	委員				

欠席委員

松井 義夫 委員

事務局

竹内 隆正 事務局長 櫻井 晃生 総務課長

服部 和宏 業務課長補佐

稲垣 徹 業務課施設管理係長 水谷 正樹 総務課庶務係専門員

4 議題

- (1) 令和6年上半期ごみ溶融炉運転状況について
- (2) 令和6年冬季、春季気象調査について
- (3) 調整池からの排水調査について
- (4) 土壌環境調査について

5 会議資料

- ・令和6年上半期ごみ溶融炉運転状況
- ・気象調査（通年観測・特別観測）報告書
- ・調整池からの排水調査報告書
- ・土壌環境調査報告書

6 議事内容

櫻井総務課長：本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。
ます。

始めに、委員に一部変更がありましたのでお知らせします。お手元の委員名簿をご覧ください。本年4月の人事異動により、岩倉市市民協働部の伊藤部長と岩倉市環境政策課秋田課長が、新たに委員となっております。なお、委員の任期満了の日に、変更はございません。

只今から「令和6年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第1回定例会」を開会いたします。本日の出席委員は、16名であります。環境センター管理委員会要綱第5条の規定により、会議は成立いたします。次第に従いまして、委員長からごあいさつをいただきたいと思います。

井上委員長：あいさつ

櫻井総務課長：ありがとうございます。これ以降の議事の取り回しにつきましては、委員長にお願いいたします。

井上委員長：それでは、議事に入ります。議題1「令和6年上半期ごみ溶融炉運転状況について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

服部課長補佐：令和6年上半期ごみ溶融炉運転状況について説明させていただきます。資料1の1ページをご覧ください。令和6年1月から6月までのごみ溶融炉運転状況について、説明いたします。1号炉につきましては、1月5日から1月29日までの25日間のほか、92日間の運転を行いました。2号炉につきましては、1月9日から3月19日までの71日間のほか、141日間の運転を行いました。1号炉・2号炉並列運転日数につきましては、合計77日間でした。

続きまして、2ページの運転実績です。1月から6月までの上半期合計は、搬入日数が153日、可燃ごみ量18,593.11t、破碎残渣物が1,806.51tで、搬入量合計が20,399.62t、大塊スラグは410.93tでした。

溶融処理量につきましては、1号炉の溶融量8,082.12t、2号炉の溶融量12,845.76t、合計溶融量20,927.88tでした。また、スラグ、メタル排出量合計は1,988.46t、ごみ汚水量の185.34tについては、燃焼室へ噴霧処理を行い、ピット放水等については692.30tです。搬入量合計を令和5年の上半期と比較しますと、率でマイナス1.85%、量では、384.67tの減少でした。

3ページをご覧ください。令和6年上半期の環境センター調査概要についてです。(1)目的に変更はありません。(2)測定地点に変更はあり

ません。(3) 測定機関と測定月の①排ガス濃度(手分析)においては、令和6年1月から3月までの測定機関は、一般財団法人岐阜県公衆衛生検査センターでしたが、令和6年4月からの測定機関は、中外テクノス株式会社に変更になっております。自動連続測定については、変更はありません。

②排水及び③騒音・振動においては、それぞれ令和6年1月の測定機関は、一般財団法人岐阜県公衆衛生検査センター、令和6年5月の測定機関は、中外テクノス株式会社が行っております。

4ページになりますが、(4) 測定項目に変更はありません。

5ページの排ガス濃度測定結果(手分析)をご覧ください。1号炉は1月、3月、5月、2号炉は1月、2月、3月と4月に測定を行い、測定結果につきましては表中に記載された通りで協定基準値以下の値でした。次に、6ページの排ガス濃度測定結果の自動連続測定についても、表中に記載された通りで、協定基準値以下の値でした。1号溶融炉の2月と4月につきましては休炉中になります。

次に、7ページの場内からの雨水排水測定結果について報告します。測定日は5月13日です。1のカドミウム及びその化合物から1,4ジオキサンまでの28項目において協定基準値以下の値でした。

次に、8ページの騒音・振動測定結果について報告いたします。1、騒音測定結果について、昼間の時間帯で説明させていただきます。1月24日からの24時間の測定結果にて、測定地点①で44 dB、②42 dB、③46 dB、④43 dB、⑤47 dB、⑥49 dBでした。以下、夕、夜間、朝の時間帯で測定した結果は表中に記載された通りで、5月15日からの測定結果と合わせ、協定基準値以下の値でした。測定値は、敷地境界線上での測定で、除外できない周辺騒音を含んだ値となっております。

2、振動測定の結果は、昼間及び夜間の時間帯に測定を行い、1月24日測定と5月15日の測定において、測定地点①から⑥の全て30 dB未満であり、協定基準値以下の値でした。

9ページは、各種測定箇所的位置図です。

続きまして10ページをご覧ください。上段のグラフは、上半期の可燃ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフです。令和6年が、18,593.11 tで、令和5年より317.97 t、率で1.68%の減少になりました。下段のグラフは、総ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフです。令和6年が20,634.91 tで、令和5年より400.44 t、率で1.90%の減少になりました。

1 1 ページからは資料となります。以上で議題 1 の報告を終わります。

井上委員長：事務局の説明は終わりました。これについて、質問はありませんか。

井上委員長：なければ、議題 1 については終了します。続きまして、議題 2 「令和 6 年冬季、春季気象調査について」及び議題 3 「調整池からの排水調査について」を一括議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。

服部課長補佐：資料 2 気象調査通年観測報告書と特別観測報告書をご覧ください。1 ページ、第 1 章調査概要、1-1 目的、1-2 調査地点につきましては変更ありません。1-3 調査期間、通年冬季調査期間は、令和 5 年 12 月 1 日～令和 6 年 2 月 29 日まで、通年春季調査期間は令和 6 年 3 月 1 日～令和 6 年 5 月 31 日まで、特別観測春季調査期間は令和 6 年 5 月 16 日から令和 6 年 5 月 22 日までの 7 日間です。

1-4 調査機関、1-5 調査項目及び測定方法につきましては変更ありません。

2 ページは 調査地点図になります。

続きまして 3 ページをご覧ください。第 2 章調査結果を報告させていただきます。風向・風速、通年観測調査は冬季にて説明させていただきます。出現の多い風向と頻度では、西北西からの風 14.8%、西からの風 13.1%、北西からの風 11.9% 環境センターが位置する北からの風の頻度は、6.3%でした。平均風速は、毎秒 1.8m で、最大風速は、12 月 21 日の 11 時に西からの風、毎秒 7.8m を観測しました。春季年間の調査結果につきましては、表中に記載された通りです。続きまして風向・風速 特別観測調査について報告させていただきます。期間中の気温、湿度については、環境センター地点で平均気温 19.2℃、平均湿度は 65%でした。風向・風速につきましては、野口地点で説明させていただきます。出現の多い風向と頻度では、西からの風が 15.5%、西北西からの風が 12.5%、北西からの風が 8.9%でした。環境センター方向からの風の頻度は、北からの風、3.6%を観測し、平均風速は、毎秒 1.9m で、最大風速につきましては、5 月 21 日の 15 時に西からの風が毎秒 6.6m を観測しました。外、林地点、大山地点、環境センター地点の測定結果につきましては、表中に記載された通りです。

続きまして 4 ページをご覧ください。環境濃度（通年観測・特別観測）

につきましては、通年観測野口地点で説明させていただきます。二酸化硫黄の冬季、春季、年間の最高値は共に 0.002ppm。二酸化窒素の冬季、年間の最高値は共に、0.019ppm。春季の最高値は 0.013ppm。浮遊粒子状物質の冬季の最高値は、0.031mg/m³。春季の最高値は、0.058mg/m³。年間の最高値は、0.047mg/m³。塩化水素の冬季、春季、年間の最高値は共に 0.001ppm。特別観測につきましては、表中に記載された通りです。5 ページは、特別観測全日データ（春季）の調査地点での風向風速を表した図であり、6 ページは、風向別出現頻度及び平均風速、特別観測全日データ（春季）の表になります。

続きまして資料 3、調整池からの排水調査報告書をご覧ください。

1 ページ第 1 章調査概要の 1-1 目的、1-2 調査地点につきましては変更ありません。1-3 調査日は令和 6 年 5 月 21 日になります。1-4 調査項目及び調査方法につきましては「表 1-1」に示す通りです。2 ページは調査地点図になります。3 ページをご覧ください。第 2 章調査結果を報告させていただきます。水素イオン濃度は PH9.1、生物化学的酸素要求量は 5.3mg/L、化学的酸素要求量は 6.8mg/L、溶存酸素量は 11mg/L、浮遊物質量は 1.0mg/L 未満でありました。調整池の PH につきましては、天候、水温、日照など、藻の成長が活発化する条件が良くなりますと昼間は光合成により水中の二酸化炭素が植物にとり込まれ、PH は上昇する傾向にあります。このような条件により、5 月 21 日の PH も一時的に上昇傾向であったと思われれます。

以上で、議題 2、議題 3 についての報告を終わります。

井上委員長：ありがとうございました。事務局の説明は終わりました。これについて何かご質問はありませんか。

井上委員長：よろしいですか。なければ、議題 2 及び議題 3 については、終了させていただきます。

続きまして、議題 4 「土壌環境調査について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

服部課長補佐：資料 4 土壌環境調査報告書をご覧ください。1 ページ第 1 章調査概要の 1-1 目的、1-2 調査地点につきましては変更ありません。1-3 調査日は令和 6 年 5 月 21 日になります。1-4 調査項目及び調査方法につきましては「表 1-1」に示す通りです。2 ページは調査地点図になります。3 ページをご覧ください。第 2 章調査結果を報告させていた

だきます。土壌のダイオキシン類は 0.91pg-TEQ/g 以下で環境基準値以下の値でありました。以上で、議題 4 についての報告を終わります。

井上委員長：事務局の説明は終わりました。これについて、質問はありませんか。

ほかに質問はありませんかなければ、議題 4 については終了します。続きまして、「その他」について、事務局から何かありませんか。

櫻井総務課長：それでは事務局から連絡、報告事項がございます。

まず、お配りしております、災害廃棄物の広域中間処理準備要請についてです。資料をご覧ください。

環境省中部地方環境事務所から能登半島地震により生じた災害廃棄物の広域中間処理準備要請が発出されましたのでご報告をいたします。今後、被災地の災害廃棄物処理について支援を行って参りたいと存じますのでご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

準備要請の内容でございますが、広域中間処理が必要な主な被災市町村は、石川県七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町及び能登町でございます。災害廃棄物等の種類は、木くずを含む可燃ごみ。想定量は、組合の受入可能量の 1 日当り 10 t/日でございます。想定期間ですが、令和 6 年 8 月末ごろになると思われませんが、そこから令和 8 年 3 月末までを予定しております。今後の流れでございますが、石川県受援市町との受入れ調整、受入に係る条件・内容等の最終調整・確認を得まして、最終的に受援市町との覚書等締結の運びとなります。

以上が 1 点目の報告となります。

続きまして 2 点目、ごみ処理応援協定に基づくごみ受け入れ要請について業務課長補佐から説明申し上げます。

服部課長補佐：続きまして、2 点目ですが、資料はございません。小牧岩倉衛生組合においては、愛知県の各市町村及び一部事務組合において構成される団体に参加しており、応援協定とは、その各団体の間において、災害及び事故、改修等に伴う長期間にわたる施設の停止などに対応するため、ごみの受入れ応援を行うものです。

過去においては、江南丹羽や西春東部よりごみ受入れの応援実績があります。

つきましては、令和 7 年度（11 月～）において、春日井市より設備の基幹改修工事による応援要請がありまして、現在、組合では応援を受け

入れる方向で調整を行っておりますので、報告させていただきます。
以上です。

櫻井総務課長：連絡事項が1点ございます。次回の管理委員会の開催時期ではありますが、来年2月上旬を予定しております。開催日時が決定次第、皆様にご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

井上委員長：何かご質問はございますか。なければ、本日予定しておりました議事を終了いたします。これをもちまして、「令和6年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第1回定例会」を閉会いたします。本日は、お疲れ様でした。